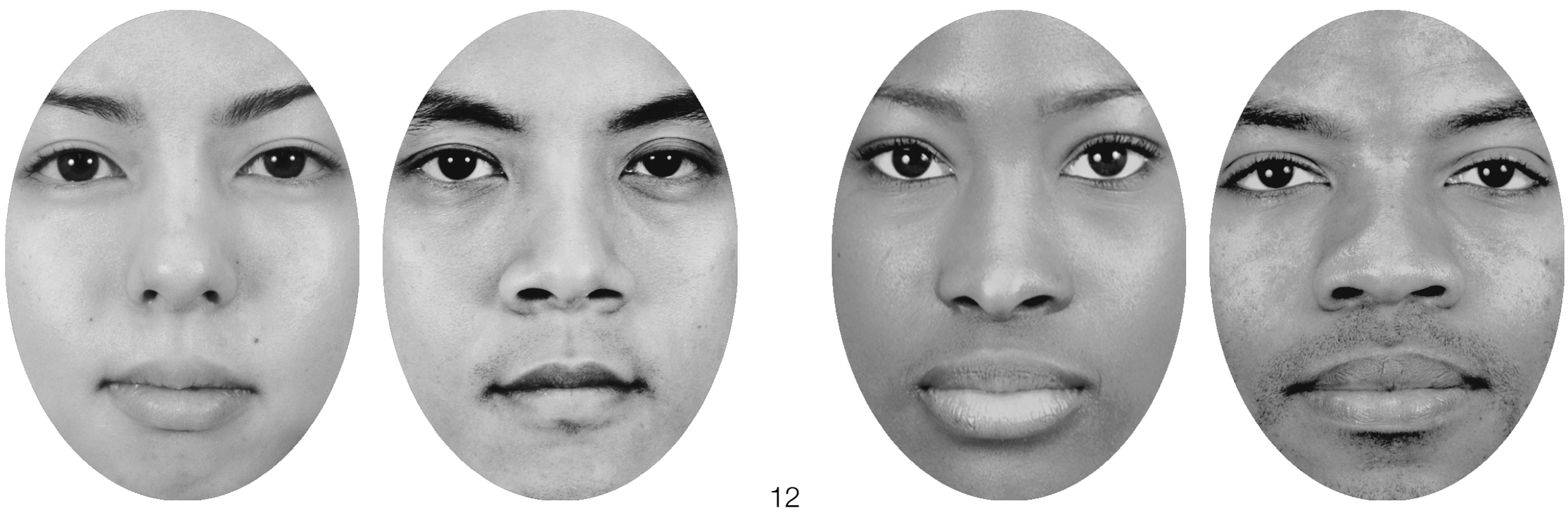
実験

実験参加者

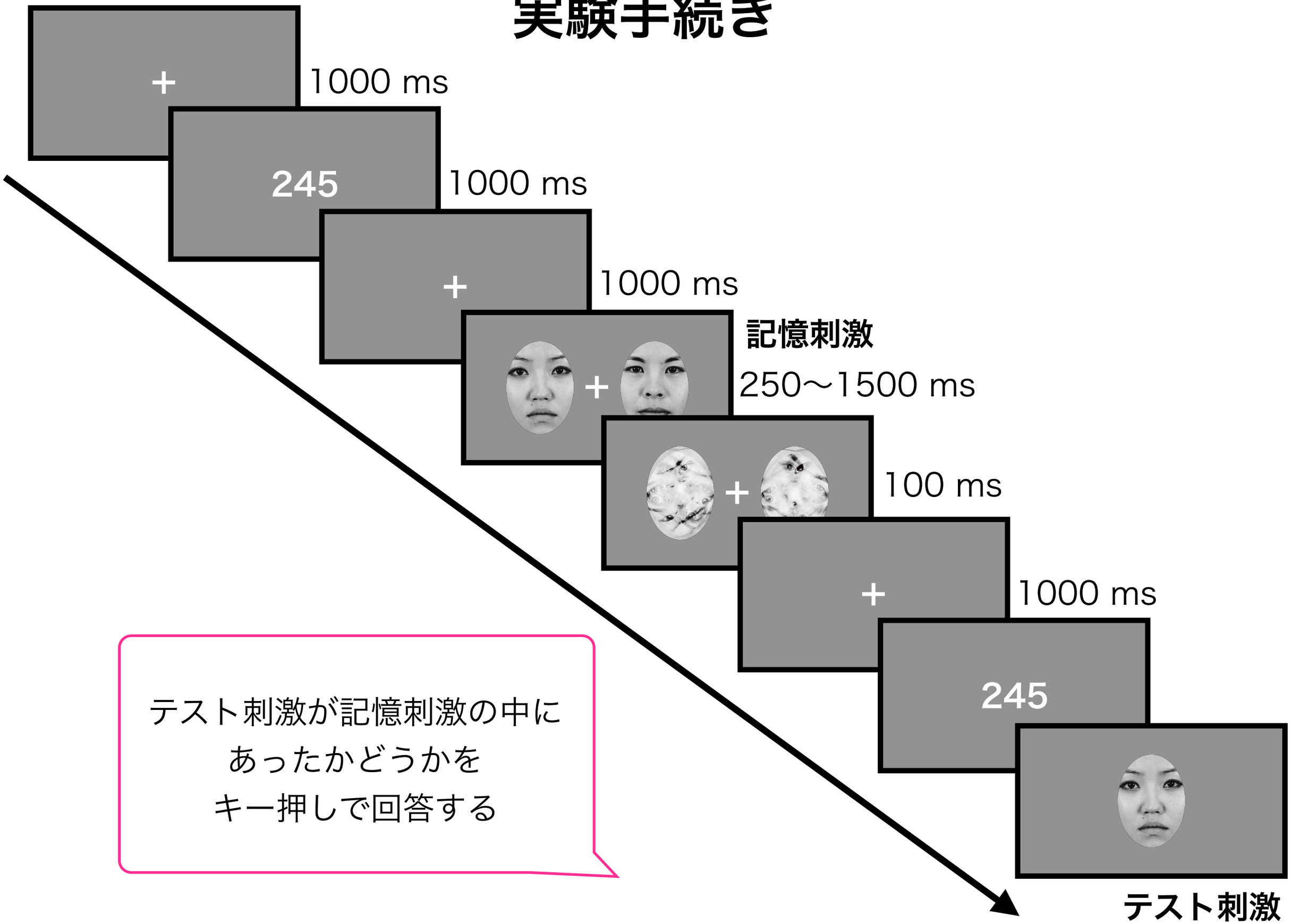
- 30名（男性：10名　女性：20名）
  - 1人は中国からの留学生
- 平均年齢：20.2歳（18-26歳）

実験刺激

- Chicago Face Database（Ma, Correll, & Wittenbrink, 2015）
  - 自人種顔：アジア人顔（女性20枚、男性20枚）
  - 他人種顔：黒人顔（女性20枚、男性20枚）
- ニュートラル表情
- グレースケール、楕円切り抜き（髪が入らないように）
- アジア人顔と黒人顔の間で輝度調整済み

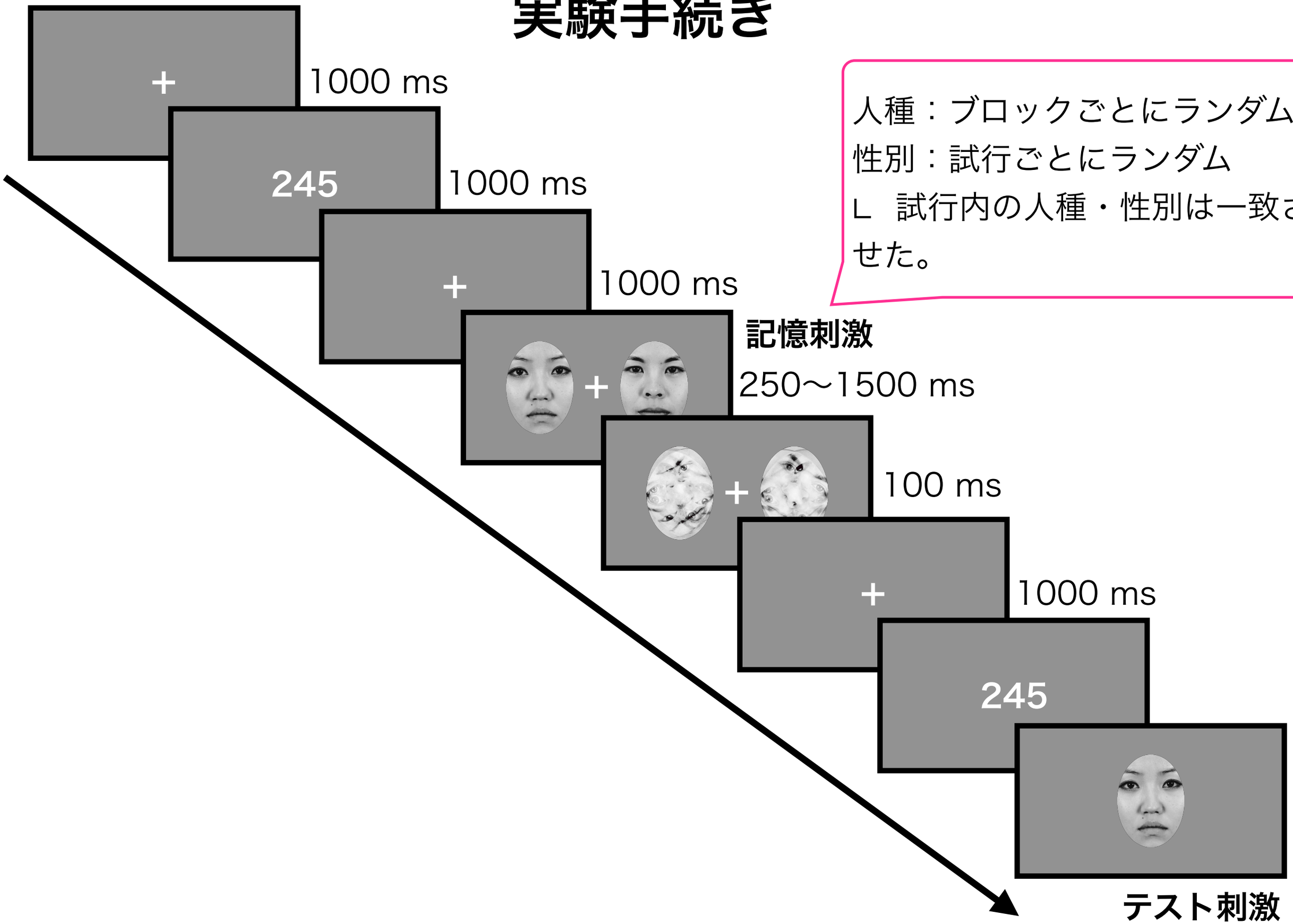


実験手続き



テスト刺激が記憶刺激の中に
あったかどうかを
キー押しで回答する

実験手続き

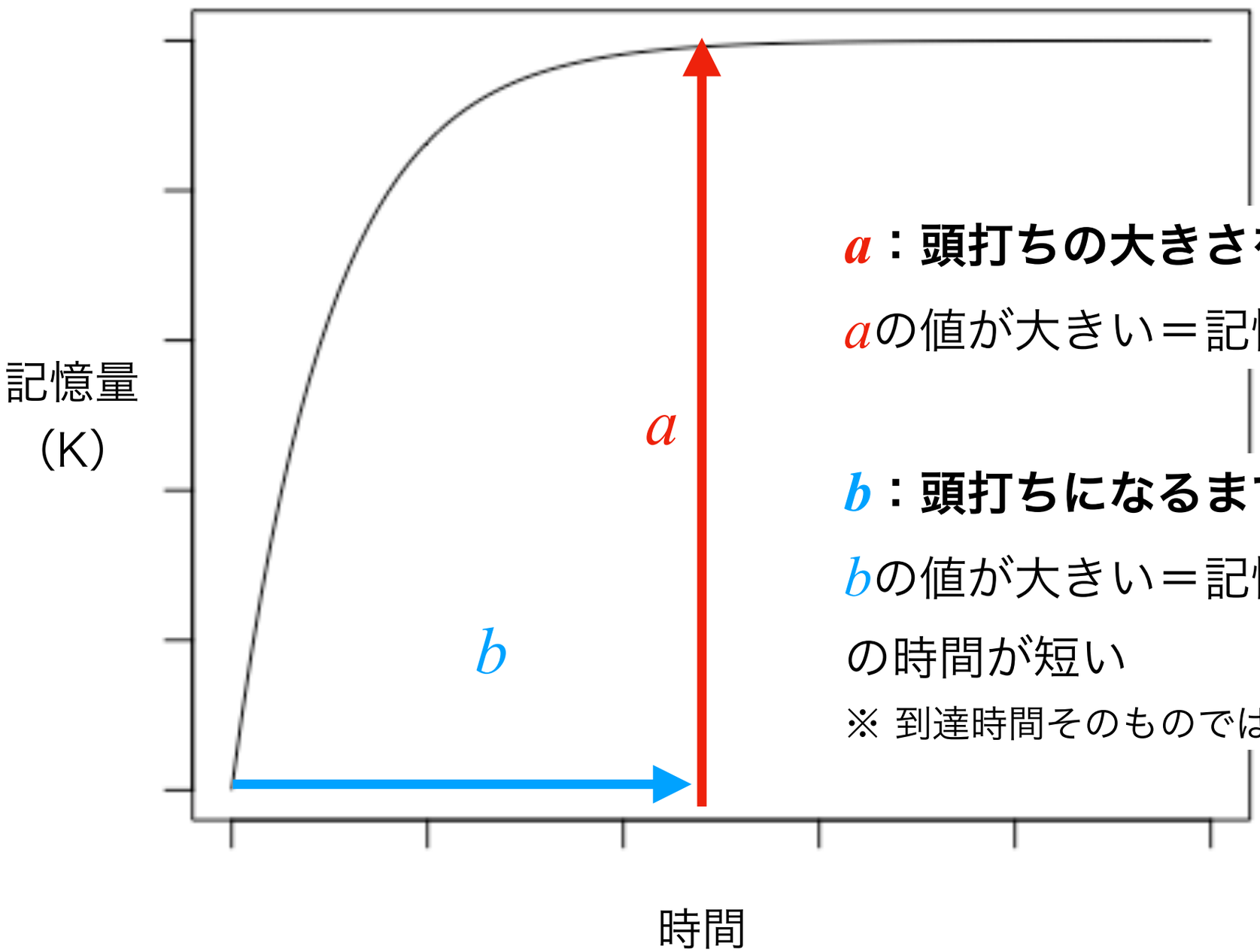


人種：ブロックごとにランダム
性別：試行ごとにランダム
L　試行内の人種・性別は一致させた。

分析方法

関数を当てはめてパラメータを求める

$$y = a(\ 1 - \exp(\ -bt\ )\ )$$



***a*：頭打ちの大きさを決めるパラメータ**

*a*の値が大きい＝記憶量の最大値が大きい

***b*：頭打ちになるまでの時間を決めるパラメータ**

*b*の値が大きい＝記憶量の最大値に到達するまでの時間が短い

※ 到達時間そのものではない

分析方法

- 推定方法：最小二乗法
- 条件比較：一般化線形混合モデル
  - 実験参加者要因をランダム切片とした
    - `glmer( 容量 ~ 人種 + ( 1|参加者 ), data = params, family = Gamma )`
    - `glmer( 符号化速度 ~ 人種 + ( 1|参加者 ), data = params, family = Gamma )`